

2021年度入学者選抜に向けた 各大学の検討状況について

0. 事業概要 (1) 事業の目的、(2) 調査概要

■ 事業の目的

- ◆ 2021年度大学入学者選抜から大学入学共通テストを実施し、新たに国語及び数学において記述式問題を導入するとともに、英語について、「読む」「聞く」「話す」「書く」の4技能を適切に評価するため資格・検定試験を活用することとしています。
- ◆ このような中、各大学における大学入学共通テストや英語の資格・検定試験の活用見込み等について把握するため、調査を行いました。

■ 調査の概要

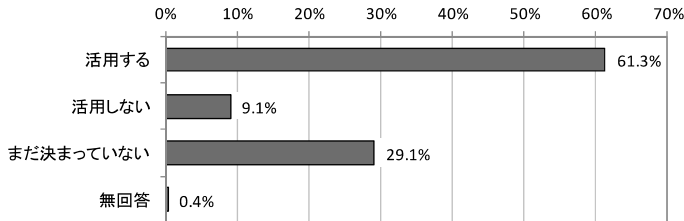
- ◆ 調査方法: 大学院大学を除く全国の大学にアンケート調査票をメールで送付。
- ◆ 調査対象: 1,068件(大学: 759校、短期大学: 309校)
- ◆ 調査期間: 2019年1月11日(金)～2019年1月25日(金)(ただし、3月19日まで回答受付)
- ◆ 有効回答数: 964校(大学: 692校、短期大学: 272校)、回収率90%
- ◆ 調査委託先: 株式会社リベルタス・コンサルティング(東京都千代田区六番町2-14東越六番町ビル2F)
※あわせて、入試改革について検討の進んでいる6校に対してヒアリング調査を実施。

1. 大学入学共通テストについて (1) 大学入学共通テストの活用

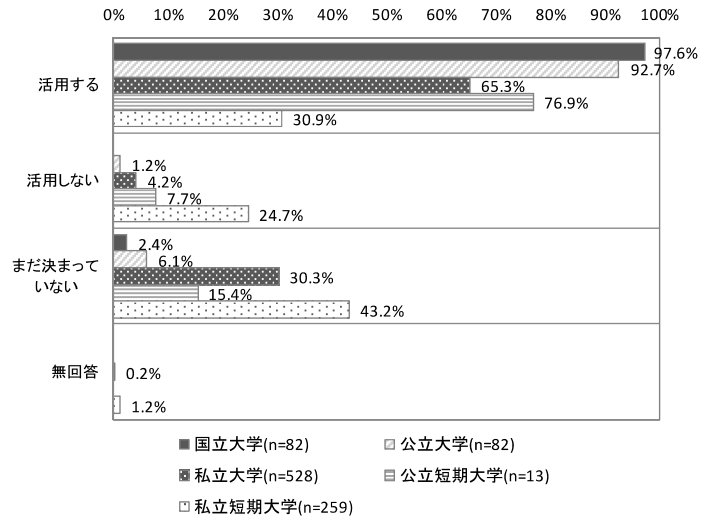
■大学入学共通テストの活用を決めている大学・短大は、全体の6割以上。(「まだ決まっていない」が約3割。)

■特に、国立大学、公立大学は9割以上が活用すると回答。

大学入学共通テストの活用(n=964)



大学入学共通テストの活用(設置者別)

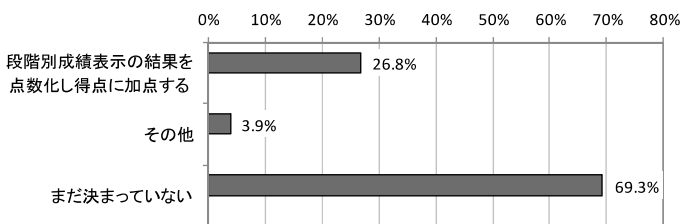


1. 大学入学共通テストについて (2) 国語の記述式問題の活用方法

■国語の記述式問題の活用方法は、「まだ決まっていない」が約7割。

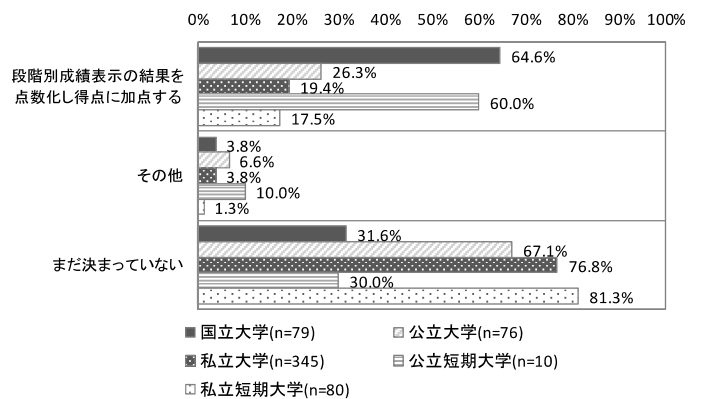
■国立大学は「段階別成績表示の結果を点数化し得点に加点する」割合が6割強。

国語の記述式問題の活用方法(n=590(※))



(※)n=大学入学共通テストを「活用する」と回答した数

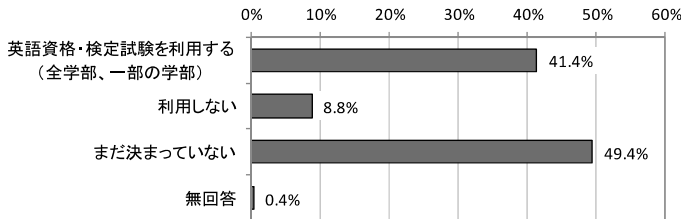
国語の記述式問題の活用方法(設置者別)



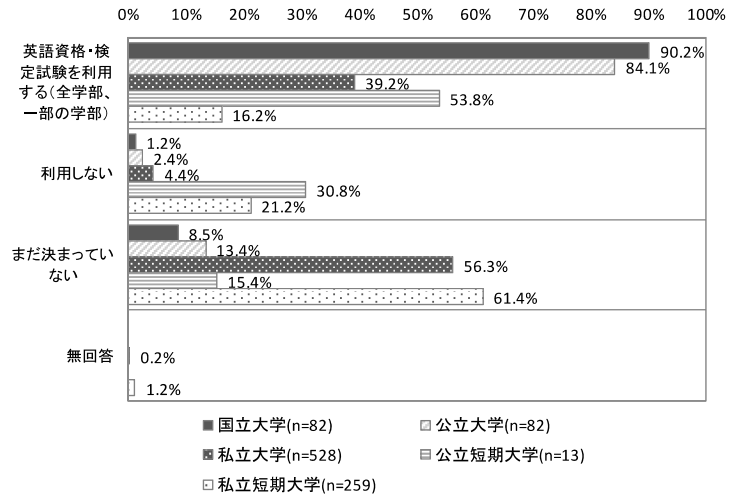
2. 英語の資格・検定試験の活用について (1) 利用有無

- 「大学入試英語成績提供システム」に参加する英語資格・検定試験の結果の利用については、「利用する」が4割強、「まだ決まっていない」が5割弱。
- 国立大学の9割以上、公立大学の8割以上が「利用する」と回答。

英語資格・検定試験の利用について(n=964)



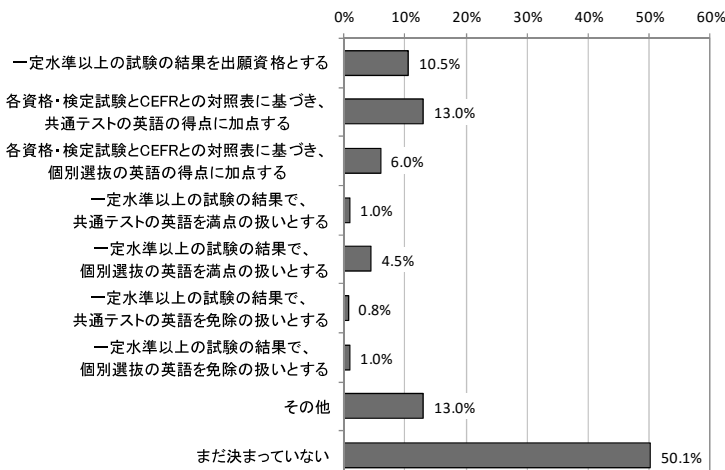
英語資格・検定試験の利用について(設置者別)



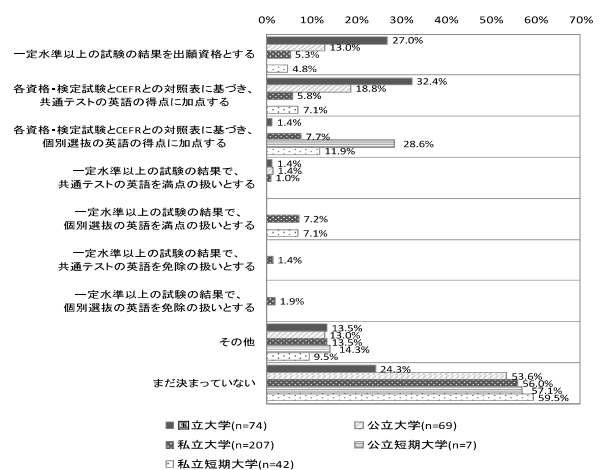
2. 英語の資格・検定試験の活用について (2) 活用方法

- 「大学入試英語成績提供システム」に参加する英語資格・検定試験の結果を利用する大学・短大について、活用方法についてみると、共通テスト又は個別選抜の英語の得点に加点する、や出願資格とする割合が多い。
- 国立大学では「各資格・検定試験とCEFRとの対照表に基づき、共通テストの英語の得点に加点する」が32.4%、「一定水準以上の試験の結果を出願資格とする」の割合が27.0%。

英語資格・検定試験の活用方法(n=399)



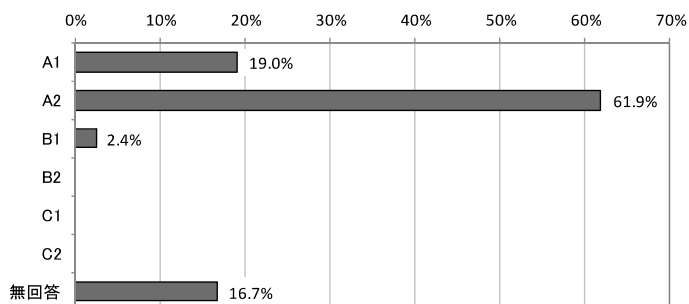
英語資格・検定試験の活用方法(設置者別)



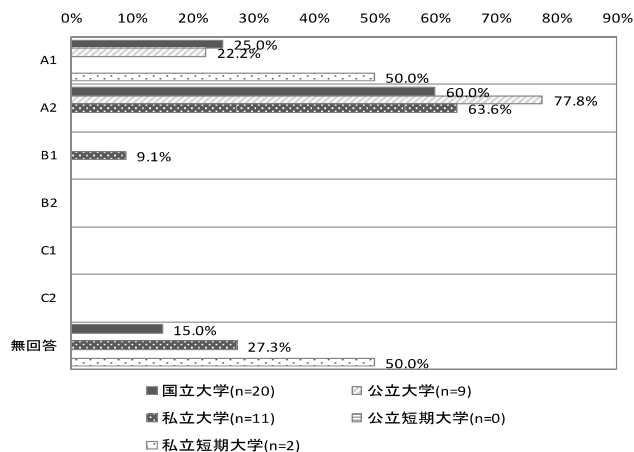
2. 英語の資格・検定試験の活用について (3) 学生に求めるレベル

■一定水準以上の試験の結果を出願資格とする大学において、CEFRとの対照表に基づいた学生に求めるレベルは、「A2」が6割以上。

各資格・検定試験とCEFRとの対照表に基づいた
学生に求めるレベル(n=42)



各資格・検定試験とCEFRとの対照表に基づいた
学生に求めるレベル(設置者別)



2021年度入学者選抜における「大学入試英語成績提供システム」参加試験の
活用予定（国立大学・一般選抜）

<2019年5月13日現在（文部科学省調べ）>

活用方法	大学名（学部等名）	大学数（※1）	
①出願資格として活用	C E F R A 2 以上	埼玉、千葉、東京、東京医科歯科、東京外国語、東京農工、東京工業（個別学力検査（前期日程）英語の一部に活用）、お茶の水女子、電気通信、一橋、横浜国立（経済学部）、岐阜（医学部医学科）、浜松医科、名古屋、滋賀、京都、大阪、神戸、鳥取（農学部共同獣医学科）、島根（医学部医学科）、徳島（医学部医学科、歯学部歯学科、薬学部）、香川（医学部医学科）、愛媛（医学部医学科）、九州、琉球（医学部医学科）	25
	C E F R A 1 以上	帯広畜産、宮城教育、横浜国立（経営学部、理工学部、都市科学部建築学科、都市基盤学科、環境リスク共生学科）、上越教育、金沢、福井、京都教育、徳島（上記以外）、香川（上記以外）、愛媛（医学部医学科以外）、高知、福岡教育、熊本	13
	C E F R 基準の定めなし	奈良女子（※4）、岡山（※4）、広島	3
	C E F R 基準は未定	旭川医科、東京海洋、滋賀医科	3
②点数化して加点（大学入学共通テストの成績に加点）	北海道教育、室蘭工業、弘前、岩手、秋田、福島、茨城、筑波、筑波技術（産業技術学部）、群馬、東京藝術（美術）、新潟、長岡技術科学、富山（人間発達科学部、経済学部、医学部、薬学部、芸術文化学部、都市デザイン学部）、信州、岐阜（医学部医学科以外）、静岡、愛知教育、名古屋工業、豊橋技術科学、三重、大阪教育、兵庫教育、鳥取（地域学部、医学部生命科学科、医学部保健学科、工学部、農学部生命環境農学科）、島根（医学部医学科以外）、山口、鳴門教育、九州工業、佐賀、大分（医学部医学科以外）、鹿児島、鹿屋体育、琉球（医学部医学科以外）	33	
③出願資格及び点数化して加点	小樽商科、横浜国立（教育学部、都市科学部都市社会共生学科）、信州（教育学部英語教育コース）、京都教育（英語領域専攻）、鳥取（医学部医学科）、長崎、大分（医学部医学科）	7	
④一定水準以上の成績で大学入学共通テストの「英語」を満点とみなす	東京藝術（音楽）、福井（国際地域学部）、広島	3	
⑤高校が作成する証明書等の併用	埼玉、東京、東京医科歯科、一橋、浜松医科、名古屋、京都、奈良女子	8	
⑥高得点利用（大学入学共通テストの「英語」の得点と比較）	富山（人文学部、理学部、工学部）	1	
⑦活用するが、現時点で活用方法を明示していない	北見工業、山形、宇都宮、東京学芸、山梨、奈良教育、和歌山、宮崎	8	
⑧活用しない	北海道、東北（※4）、筑波技術（保健科学部）、京都工芸繊維	4	

※1 大学数には、一部の学部等のみで実施する場合を含めています。

※2 2019年5月13日現在の情報であるため、最新情報は必ず各大学のウェブサイトを確認してください。

また、各大学における活用方法の詳細についても、各大学のウェブサイトを確認してください。

※3 「活用方法」には、当てはまる箇所全てに記入しているため、複数欄に記載されている大学もあります。

※4 当該大学については、A2レベル以上の英語能力を有していることが望ましいとしています。